

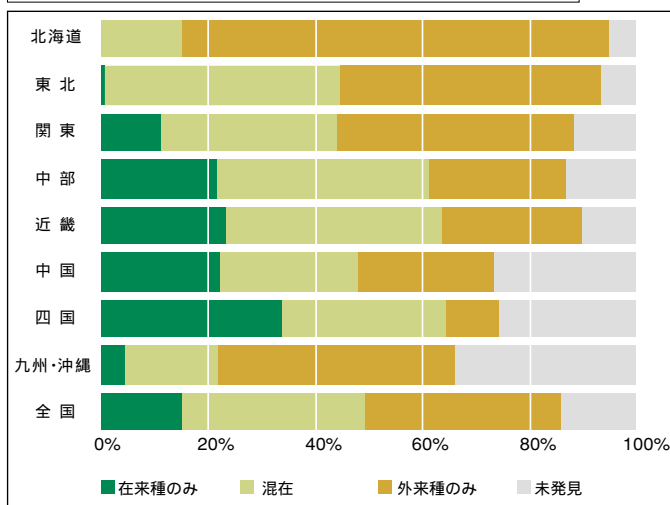
地域で違うタンポポの仲間

どんなタイプのタンポポが記録されたかを地域別にまとめてみました。全体的には、外来種の方が在来種よりも優占しているという結果でしたが、特に北海道では在来種のみが発見された地点が1つもありませんでした。外来種のタンポポは都市環境の指標とされることがありますが、注意しなければならないのは、そうしたことがいえるのは、おもに関東地方から瀬戸内海沿岸地域にかけてで、それは在来種の2倍体タンポポが分布している地域だということです。北海道や東北地方にも倍数体の在来種が分布していますが、それは局地的なので、結果的に外来種が大多数を占める結果になっています。

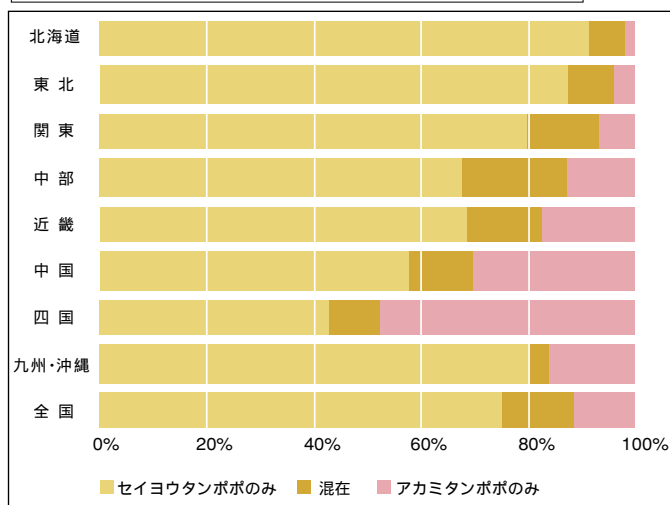
るのです。九州・沖縄地方で在来種が少ないのも同様な理由によるものです。

セイヨウタンポポとアカミタンポポは、ともに20世紀の初め頃に北海道で見つかった外来種ですが、現在の分布の勢力は地域によって異なっているようすが明らかになりました。全国的にみるとセイヨウタンポポが優勢で、特に北海道では圧倒的に多数を占めています。西に行くほど、ややアカミタンポポが勢力を増しており、調査地点数が少ないものの四国ではアカミタンポポがほぼ同じ勢力でした。こうした差が地域差なのか、調査地点の環境の偏りによるものなのか、今後の検討が必要です。

地域別にみたタンポポの在来種と外来種の状況



地域別にみた外来種の状況



役立ちました。みなさんのタンポポ！

近年の研究で、セイヨウタンポポ・アカミタンポポと在来種の2倍体タンポポの間に雑種が生じることがわかり、しかもその雑種が広範囲に勢力を広げていることが明らかになってきました。雑種性の個体は、見かけ上はセイヨウタンポポやアカミタンポポにそっくりで区別が難しく、p.21で紹介した分布図も、見かけのセイヨウタンポポ・アカミタンポポについてのものです。

今回の調査でみなさんから送っていただいた果実のうち、セイヨウタンポポと確認(同定)されたものが、(独)農業環境技術研究所で種まきされ、育った株からDNA分析が行われました。その結果、全国的に見ても、雑種性のセイヨウタンポポが多くを占めていることが明らかになりました。これもみなさんに実物を送っていただいたことの成果といえるでしょう。特に首都圏や中京圏、関西圏などの大都市周辺では雑種性の個体がほとんどを占めているのが目立ちます。一方で、北海道などでは純粋なセイヨウタンポポの割合が高くなっていました。

こうした雑種が、いつ頃生まれ、どうやって広がったか、また都市化の進行とどのような関連があるのかなどは今後の大きな研究課題です。



いただいたタンポポを栽培しているようす(右上写真も同じ)

雑種性のセイヨウタンポポと純粋なセイヨウタンポポの分布図

